カナダ中のRVが集まったかと思えるくらいのFICCの世界大会会場（ケベック州　ブロモント）◎撮影:竹本孜（前オートキャンプ紙編集長）

世界と日本のキャンピングカー人口販売台数の比較

カナダ／中国／南アフリカ／日本

新興国でも成長遂げるキャンピングカー産業

アジア、オセアニア、アフリカにも普及

成長著しいカナダ

カナダを走るキャンピングカーの総台数は、現在約80万台といわれる。隣国アメリカの820万台に比べるとその数は10分の1に過ぎないが、それでも日本の13倍という台数を記録し、「キャンピングカー先進国」としての面目を保っている。

07年度のカナダのキャンピングカーマーケットは、過去3年のうちにその規模を著しく拡大したという。

これは、アメリカやその他の国々に対し、相対的にカナダドルが力を付けたことを背景にしたもので、カナダではこの勢いに乗って、2009年の市場拡大にも力を入れている。

キャンピングカー新興国中国

中国のキャンピングカー産業はまだ黎明期を迎えたばかり。産業としての骨格がしっかり整い、安定したユーザー層が形成されるようになるのは、これから先だといわれている。そのため、中国のキャンピングカー事情を詳しく述べた資料はまだ発表されていない。

しかし、推測によると、現在中国ではおよそ20社のキャンピングカー工場が製作に励んでいるといわれている。

これらの工場の中には、日本のキャンピングカーメーカーと提携して製作に励んでいる工場も多く、日中提携工場から出荷されるキャンピングカーの数は年々増加している。

各工場の成長と歩調を合わせるように、2007年には自走式キャンピングカーの工業規格などを整備した「Automobile Industry Standards」が確立され、中国製キャンピングカーを製作するための基礎が固まった。

さらに、キャンピングカー産業協会の設立、展示会の準備、キャンプ場の整備も急ピッチに進み、それらを広報するメディアのサポート体制も強化された。

2007年には、ドイツ、アメリカなどから相当数のキャンピングカーが輸入されたことも確認されており、中国がキャンピングカー大国になる準備は着々と進められている。

個性豊かな南アフリカのRV

南アフリカでは、シェルタイプのキャラバン（トラベルトレーラー）が毎年2,400～2,500台ほど製造され、その総累計が約105,000台になったという。

一方、自走式キャンピングカー（モーターホーム）の歴史はまだ浅いため、その台数は非常に少ない。正確な数は把握できていないが、累計1,700～1,900台ぐらいではないかと推定されている。

トラベルトレーラーと自走式キャンピングカーの合計数は10万7,000台。日本の2倍弱といえる規模だ。

ちなみに、南アフリカを代表するRVメーカーの「Motorhome-World 社」のデータによると、同社が設立された2002年から2008年までの7年間に製造された自走式キャンピングカーの総数は220台だという。

少しややこしいのは、南アフリカでは、前述したキャラバン（トラベルトレーラー）とは別に、「キャンピングトレーラー」というカテゴリーが存在することである。

このトレーラーは、大自然の中で野生動物を観察するサファリ観光のようなものに使われることが多く、この国だけの特殊なマーケットを形成している。

構造的な特徴としては、フォールディングトレーラーに近く、悪路走行にも適した大径タイヤを履き、地上高をたっぷり稼いだオフロード仕様になっている。

南アフリカでこの「キャンピングトレーラー」を製作している製造メーカーは約30社ほどあり、50以上のモデルが年間2,000台生産されている。しかし、このカテゴリーにはカーゴトレーラーのようなものや馬運搬用貨車のようなものまで含まれるため、全体を統計的に把握できる資料は存在しない。

日本のキャンピングカー販売は4年間右肩上がり

日本RV協会（JRVA）の調査によると、2007年度の国産キャンピングカーの販売台数は4,223台であった。これは統計を取り始めた過去4年間の数値としては最高のものとなった。

種類別にみると国産バンコンが一番多く、前年比36.7パーセント増の2,203台を達成した。次に販売台数が多かったのは国産キャブコンで、前年比31.5パーセント増の1,350台を記録した。

4番目は国産バスコンで、出荷台数は66台（前年比15.4パーセント減）であった。

一方、2007年度の輸入キャンピングカーの販売台数は482台を記録し、これも統計を取り始めたこの4年間では最高の数値を示した。

種類別に見るとトラベルトレーラーの輸入台数が一番多く394台にも及んだ。

以下、クラスC47台。クラスA23台、クラスB（バンコン）10台と続いた。

これらの国産車および輸入車を合わせた07年度の日本のキャンピングカーの販売台数は4,705台となり、これによって、国内を走っているキャンピングカーの総数は約5万9,000台（推定）と見積もることができるようになった。

世界のキャンピングカーオーナー像 & 宿泊施設

Campingcar Owners & accommodations

アメリカ／カナダ／ヨーロッパ／オーストラリア

日本のキャンプ場にもよく似たグランドキャニオンの「トレーラービレッジRVパーク」（アメリカ）

アイルランドのキャンプ場。ヨーロッパの人々にとって日光浴はキャンプの大きなテーマ（イギリス）　◎撮影:竹本孜（前オートキャンプ紙編集長）

凄いぞ世界のユーザーたち

ゴルフのショートコースを備えたリッチなRVパーク
（カリフォルニア州・パームスプリングの「RVリゾート」）
◎撮影:竹本孜（前オートキャンプ紙編集長）

センターハウスの中庭にはプールが広がる
（オアシスRVパーク・アメリカ）

遊びの道具を何でもけん引してしまうのがアメリカ流。モーターホームでボートトレーラーやカーゴトレーラーを引く車両もよく見かける
（オアシスRVパーク・アメリカ）

夏はロッキー山脈、冬はフロリダ 広い大陸をいっぱい使って楽しむアメリカのユーザー

アメリカでRV（キャンピングカー）を製造・販売している会社によって組織されたRVIA（The Recreation Vehicle Industry Association）のオーナー調査によると、全乗用車オーナーのうち、RV車を所有するオーナーの比率は8パーセントだという。

これらのRVオーナーの平均年齢は49歳。既婚者が大半を占め、家庭収入は年額6万8,000ドル。毎年平均4,500マイル（約7,245km）の旅を26日間かけて楽しんでいる。

シニア夫婦がRVを使う場合は、移動距離も長くなり、一定の場所での滞在期間も増える。彼らは、夏は涼しいロッキー山脈の麓で過ごし、冬は温かいフロリダの海岸に滞在するなど、1年を有効に使いながら、気に入った場所で長期滞在をする。

彼らが滞在するキャンピングカー宿泊施設では、顔見知り同士が集まるコミュニティのようなものも形成され、仲間同士がお互いのクルマに通い合ってパーティを開いて楽しんでいる。

アメリカでは、キャンピングカー専用の宿泊施設を「RVパーク」と呼ぶ。

RVパークには上下水道、AC電源などのフックアップ機構が完備しており、ユーザーがそれを自分のRVに接続すれば、あたかもライフラインの整った「家屋」のような快適生活を送ることができる。

こういうRVパークは、全米にくまなく整備され、国立公園のような観光地の周辺にあるばかりでなく、普通の幹線道路沿いや都市の中でもオープンしている。

カナダのRV普及率は14%

2006年度の市場調査によると、カナダ家庭のなかでRVを所有している家族は14パーセントであるという。

雄大な自然に恵まれ、しかも伝統的にアウトドア生活を楽しむ国民性を特徴とするカナダは、まぎれもなくアメリカやヨーロッパと並ぶRV先進国の仲間入りを果たしている。

時にはオペラ座でオペラを鑑賞 都市でも観光地でもマイペースで遊ぶヨーロッパユーザー

ヨーロッパのキャンピングカーオーナーの平均年齢は47歳。アメリカより2歳ほど若い。

しかしながら、欧州の各RVメーカーは、「ベスト・エイジ」と呼ばれる50代半ばの顧客層に中心に販売戦略を展開しており、造られるクルマも、シニア夫婦が快適に旅行できるようなレイアウトのものが主流となっている。

ヨーロッパ型キャンピングカーの構造には、ヨーロッパ文化の厚みが反映している。例えば、彼らが使うキャンピングカーでも、サイズ的にゆとりのあるクルマになれば、必ず充実したクローゼットが設定されている。彼らはそこにスーツ、ジャケット、時には礼服のようなものまで収納して旅を続ける。

ヨーロッパのユーザーたちにとって、キャンピングカーはアウトドアを楽しむためだけにあるのではなく、都会生活を楽しむためのギヤでもある。

例えば、パリ近郊のブローニュの森にあるキャンプ場に投宿した場合は、彼らはスーツに着替え、オペラ座でオペラを見物したり、時には高級レストランでディナーを楽しむ。クローゼットが充実しているのは、そのための衣服をたくさん用意するという理由から来ている。

逆に郊外のキャンプ場などで宿泊する場合は、多くの人たちの食事はいたって簡素だ。朝食はパンとコーヒーぐらいですますことが多く、夜の食事も、日本人のように盛大なバーベキューパーティーを催すようなことは少ない。

彼らは食事の準備に手間をかけるよりも、その時間を日光浴や読書、ウォーキングに当てている。キャンプやキャンピングカー文化の歴史が長い彼らの遊び方には、場所や時間帯を有効に使うコツが染み着いており、無駄なエネルギーを使わず、自然体でアウトドアを楽しんでいる。

豊かな自然を楽しむ オーストラリア国民

オーストラリアの自然は、アウトドアライフを楽しむためにあるといえるほど豊かだ。太陽の光りに輝くビーチは至るところにあり、野生生物が元気に活動する多雨林にも恵まれ、奥地に行けば、学術的な研究対象としても知られる赤い砂に彩られた砂漠も広がっている。

このような自然の恵みを堪能できるオーストラリアでは、国民の間にもキャンピングカーを活用した旅行スタイルが浸透しており、結果的にRV産業が繁栄している。

▲ベルヒテスガーデンのキャンプ場（ドイツ）
◀フランスの「ブローニュの森キャンプ場」。ゲートまで歩いて5分ぐらいの距離に地下鉄の駅があり、そこから二つ目の駅がもう有名な凱旋門。キャンパーはここに泊まって自由にパリ市内に遊びに行く　◎撮影:竹本孜（前オートキャンプ紙編集長）